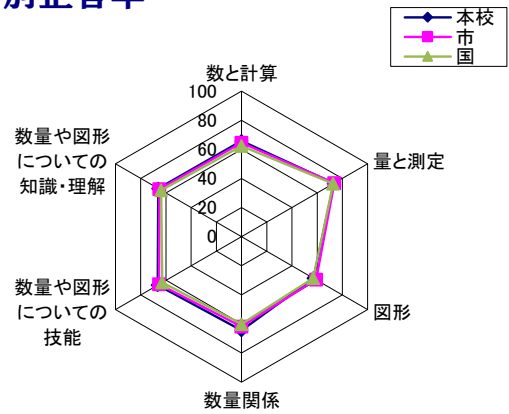


宇都宮市立桜小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

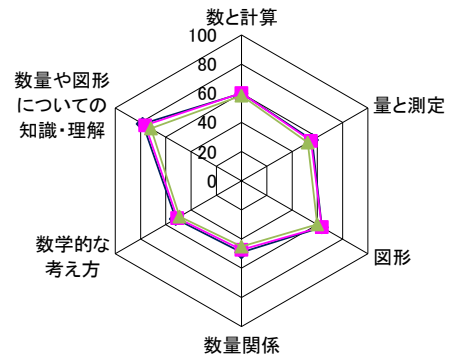
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	65.8	64.5	62.3
	量と測定	73.2	73.6	72.7
	図形	57.0	59.1	56.9
	数量関係	64.4	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	66.5	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	66.1	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	60.0	60.2	58.4
	量と測定	55.9	55.0	52.4
	図形	63.6	63.5	59.9
	数量関係	49.1	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	52.1	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	78.2	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○Aは市や国の正答率を上回っている。Bは市の正答率とは、ほぼ同じで国の正答率は上回っている。 ○数の大小の理解が高かった。 ●小数の除法の意味の理解を問う問題の正答率は、市や国の正答率を上回っているが、41.3%と高くない。	・授業で位取り表などを活用してきた成果がでてきているので、今後も教具など活用して指導していく。 ・生活場面などと関連させながら、小数の除法の問題の習熟を図っていく。
量と測定	○Aは市や国の正答率とほぼ同じで、Bは市や国の正答率を上回っている。 ●単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味の理解を問う問題の正答率は、市や国を上回っているが、50.9%と高くない。	・今後も、授業の中で実際に測定したり、その大きさや量が実感できる時間を充実させていく。 ・比べられる量ともとにする量を意識して、問題の意味や立式の方法を考える時間を充実させていく。
図形	○Aは国の正答率を上回り、Bは市や国の正答率を上回っている。 ●円周率の意味についての理解を問う問題の正答率は市や国の正答率を上回ったが、直径の長さや円周の長さの関係について問う問題の正答率は下回っている。	・今後も、個の活動だけでなく、グループなどでの学び合い活動で、円の面積の求め方の理解を深めていく。 ・生活場面などと関連させながら、円の直径と円周の長さの理解を図っていく。
数量関係	○A・Bともに、市や国の正答率を上回っている。 ○百分率を求める問題や、折れ線グラフの変化の特徴を読み取る問題の正答率が市や国を上回っている。	・今後も百分率を求める問題の復習など、習熟を図る。グラフの読み取りでは、理科や社会科との関連も図りながら活用場面を意識していく。